

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000261		
法人名	株式会社 ほのぼの		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	兵庫県尼崎市神田南通二丁目50番地		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	2011年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kaigo.com/">http://www.hyogo-kaigo.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成23年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街がすぐ近くにあり、雨天などに関係なく買い物ができる。また天気の良い日などは近くの公園などにも散歩に行き支援しています。定期的な食事やおやつづくりレクリエーションを行い入居者様と共に調理を行なっています。職員の多くから当施設は働きやすい場だと声を頂いている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームほのぼのは最寄の駅から商店街の中を歩いて10分ぐらいのところ、敷地のゆったりした2階建ての建物である。開設後約1年、昨年9月からは新しい管理者になり、職員の意見を聞き、職員が楽しく仕事をし、利用者の笑顔を引き出せるように努めている。利用者の思いを職員も共に受け入れ、利用者目線で関わっていけるホームを目指している。地域との関わり、家族との交流も少しずつ進展しており、商店街に近い地域性を活かした独自の取り組みの可能性が期待される。管理者は利用者の権利擁護(身体拘束、高齢者虐待、成年後見制度等)について職員が学べる場を提供し、職員がしっかり基本を理解して業務に携わられるように望みたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3ぐらいと 3. 家族の1/3ぐらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3ぐらいが 3. 職員の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3ぐらいが 3. 家族等の1/3ぐらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様一人一人の生活を各職員が支え、援助していく中でその人らしい生活をして頂くよう支援している。	「住みなれた街尼崎で家庭的な心温まるほのぼの空間を」を理念として、会議で唱和、理念の共有を図っている。利用者と一緒に近くの公園へ散歩したり、商店街で買い物をしたり、ホームではゆっくりと職員が利用者に対応し、ほのぼの空間を大事にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での買い物を職員と共に定期的に行っている。	老人会の会員が有償ボランティアで利用者の散髪に来てくれている。又、老人会からの見学も今月予定されている。近隣の商店街へは日常的に買い物に行っている。ホームの行事案内をするがまだ地域からの参加を得ていない。今後は老人会との交流を図りたいと考えている。	老人会から地域の情報をもらって、利用者が買い物以外も地域とのつながりが出来る働きかけが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議への参加の声掛けとその報告、また当施設の新聞を毎月、挨拶を兼ねて配布。老人会との交流を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内では施設内で行なった研修や教育の報告。また入居者様の生活状況報告。参加者に今後の意見を聞き入れ現場で取り入れられる事は実施計画を立てて日々向上に努めている。	開設当初は不定期に開催していたが、昨年11月から地域包括、歯科医、内科医、成年後見人等、家族が参加して定期的に開催している。地域住民にも呼びかけるが、参加はまだない。事業所の実情報告が中心である。第三者評価についても報告している。	自治会、民生委員、老人会等に声かけして、地域の方の参加の要請を期待したい。地域包括支援センターにも相談してみたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談、報告時には市町村に連絡はしているも密に連絡は取れていないのが現状である。	ノロウイルス対策や災害時の避難経路や防災ラジオ等について相談しているが、事業所の実情を理解してもらえる関係には至っていない。尼崎市のグループホーム連絡会で市からの情報の提供がある。	市との連携は双方の協働関係を築く姿勢が必要となる。今後も折りにふれ、事業所の実情等を伝えることに努められたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の教育の実施、マニュアルを作成して職員に確認するよう指示している。またその人らしさを大切にする事を目標としている為、基本現場での実施はしないよう日々、職員に指導している。	職員は身体拘束について学び、理解している。言葉の拘束についても職員を指導している。各フロアの出入口を安全のため施錠している。	施錠による閉塞感を与えない取り組みを望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状、虐待防止の教育は出来ていない。現場の職員から日々、聴取をして悩みや相談を聞き心身のケアは勤めている。	マニュアルは準備しているが、学ぶ機会は持っていない。職員がストレスを溜めないよう管理者は職員へ声かけして、何でも話してもらうようにしている。希望休への配慮や定期的な食事会等で、職員間の協力関係の構築を図っている。	まず、高齢者虐待について、職員が学ぶ機会を作ることが望まれる。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では日常生活自立支援事業との関わりがなく全職員把握が不十分である為、今後必要であれば教育の場を作りたい。	成年後見制度活用者はいるが、権利擁護について、学ぶ機会を持っていない。家族等にも説明できていない。	権利擁護の制度について学ぶ機会を持ち、今後利用契約時や必要に応じて、説明できる体制作りを整えられたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現在ではそのような状況がなく経過しています。ただし、改定等があった際には運営推進会議での報告、またお手紙での意見交換などを計画しています。	重要事項説明書、パンフレット、利用料金表をもとに十分時間をかけて説明している。希望される場合は見学してもらい、入居者と一緒にお茶を飲んでもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会時には職員より状況報告を行い、またご質問や意見の聞き入れをして頂く場を随時、提供しています。また家族会を年に2回予定しております。	家族等から運営に反映させる意見は出ていない。家族が運営推進会議に5～6名出席しており、意見交換の場となっているが、今後は全家族を対象に家族会の設置を予定している。	家族会で家族同士話し合い、まとまった意見をもとに事業所と意見交換できるよう望みたい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議、職員会議を実施してその際に運営に関わることを話、また意見交換なども行なっている。	散髪ボランティア、必要に応じて介護用ベッドの活用、笑顔を引き出せるレクリエーションの提案等、職員から意見や提案が多く寄せられ、運営に反映させている。研修や資格取得の希望も出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、また個人評価を行いその結果を上司に報告する。その際に給与水準の見直しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者を募り本部への研修を実施。また他の機関への研修にも参加をして学んだ事を現場に行かせる努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加して他の施設との交流を深めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、本人の状況を確認しています。また本人より要望等があれば、現場で考え可能であれば希望を取り入れ実施している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に面談を行い、また個人評価を行いその結果を上司に報告する。その際に給与水準の見直しをしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的に家人様の面会をして頂くよう協力依頼をしておりますその都度、希望の確認をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に職員は入居者様の事を第一に考え行動しておりその中で信頼関係を築き上げるよう努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ケアプラン作成時などに家族様の意向を確認しながら進めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が以前からお付き合いされていたご友人などにも連絡を取り面会されるよう心掛けています。	元同僚、以前住んでいた近所の方が時々遊びに来ている。馴染みの場へは家族の協力を出かけている。年賀状を親戚に出す支援もしている。土地柄熱心な野球のファンがいるので、甲子園球場への野球観戦を検討中である。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が他者と交流して頂く場を提供しています。また常に職員が間に入りコミュニケーションを図っています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時指導を提供しています。また退所後なども家族様からの連絡は密に取り、悩みや相談事にも窓口を作っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様本位の生活を提供するように心掛けている。困難な場に直面した際には職員が支援している。	家族に相談し、現場の気付きを参考にして、計画作成者が思いや意向を把握している。日々の生活の中から、利用者の表情や態度の変化を見逃さないようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に事業所より以前のサービス利用状況の確認、情報収集を取り本氏の暮らしやすい生活環境作りを支援するように心掛けている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、バイタル確認、一人一人の日々の生活の記録をして観察している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、各フロア会議を実施して職員同士でプランについて話し合いの場を提供している。	管理者、フロアリーダー、計画作成者が利用者、家族から意見を聞き取り、介護計画を作成している。フロア会議では職員が意見を出し合って経過観察し、3ヶ月毎に見直しをしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録の実施はしているが書き方については職員の勉強不足、また指導不足の為、今後の課題である。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士でプランについては話し合い利用者様本位の生活作りを心掛けている。また家族様には必ずプランの説明時に意向の確認もしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での活動の場を広く提供する事を心掛け日々、安全な生活をお送りして頂けるよう支援に努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診記録は必ずしている。また問題等があれば家族への報告は徹底している。また医師への疑問等があれば速やかに対応できるようにかかりつけ医に協力体制は取っている。	今までのかかりつけ医の受診が支援されている。他科受診の場合、職員での代行もある。協力医療機関の医師は毎月2回第1、第3(水)定期的に往診し、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々での身体状況に問題等があれば速やかにかかりつけ医に報告をして指示、または受診の対応をしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状、緊急時に連絡する近隣の病院は決めており職員には伝えているも関係作りはあまり行なっていない為、今後の課題である。	緊急時に近隣の病院へ行くことになっているが、夜間対応もあり、今後月1回位、関係作りの為、あいさつを兼ねて医療機関に出向きたいと考えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前・そのような状況になった際と二回に分けて意見をきく体制をとっている。また入所時に重度化や終末期の説明を行なっている。	終末期に向けた方針の共有は契約時口頭で行い、状態が変わった場合、家族、医師も交えて話し合っている。今迄に一度看取り経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には近隣の職員がすぐに業務に入るよう支持はしている。事故時での対応策はその都度話しているも、定期的な訓練はしていない為、今後の対策が必要である。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施、記録をしておき、各職員がどのような行動するかも伝えてはいるが個人個人が徹底して把握しているかは不十分である。	定期的に年2回、消防署指導の下、避難訓練を行っている。月2回設備点検と避難経路の確認を行っている。近隣の住民に避難訓練の協力依頼は出来ていない。	事業所は商店街にあり、近隣との協力体制が特に難しいが、今後参加をお願いしてはいかがか。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇面や尊重した声掛けの指導はしており各職員はしっかり認識しているが時折、崩れる事があり、再教育が必要な職員あり。	研修を通じて尊敬とプライバシーの確保について共有できている。又人生の先輩としての敬意を持った関わりに努めているが、管理者から見て、もっと研修を深めて行きたいとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本氏が暮らしやすい生活が出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、入居者様の生活リズムを尊重して業務をしているが、時折職員本位の行動も見られる事があり。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装については入居者様の意向を基本としている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の再は入居者様の当番制でお手伝いの提供をしている。また準備、片付けも一緒に行なっている。	業者から調理済みの食品が届き、盛り付け、食器洗い等準備や、後片付けの段階で出来るところを利用者は職員と一緒にしている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気づくりも大切にしている。	今後定期的に、利用者の好みを聞いて、ホームで職員と一緒に手作り調理を楽しむなど検討されてはいかがか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託している食事の業者から毎週、献立と栄養バランス表が送られている。水分量は日々飲用量の確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の介助の元口腔ケアの実施を行なっている。また歯科往診や受診もして日々観察している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り本氏の排泄の時間を尊重して声掛けをしているが、タイミングが合わず、空振りや失敗も多く見られている。	職員がそっと耳もとで声かけをし、トイレ誘導をしているが、利用者個々の排泄リズムがつかめていないので、状態の観察だけでは排泄の自立に向けた支援は難しい。	一人ひとりの排泄パターンを把握され、声かけ、誘導し、排泄の自立を心がけられてはいいか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の徹底。排便困難時の下剤調整、医師への報告をしっかりと行い予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、毎週三回入浴実施。また利用者様が希望されればタイミングに応じて回数に関係なく入浴をされている。	基本的に週3回、入浴時間は13:30~15:30、入浴好きな利用者が多く、回数に関係なく入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間での入眠は困難な方は医師へ報告して薬の調整をしている。日中は本氏が臥床希望時は時間に関係なく安眠して頂く環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の入居者様のお薬説明書を定期処方の方に薬局から頂いており、その用紙は各現場にて確認するよう指示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に応じた声掛け、一人一人の力を活かした役割の支援を心掛けている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に応じて散歩や買い物の実施。また外出が必要な方は家族様に協力して頂けるよう体制をとっている。	天気のいい日は、広い庭を少し歩いたり、ベンチでゆったり会話を楽しむ。2日に1度、近くのえびす神社の鳩にエサをあげた後、商店街の喫茶店に入ったりして、施設の中では見られない表情を引き出す支援がある。家族に協力を呼びかけて、春の遠足は全員で、須磨方面の計画もある。	



自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭管理は基本事務所でしている。その中から、希望時に応じて好きなものを購入して頂く場を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時(訴え時)には電話や手紙の対応を家族様も含めて対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の作品をフロアにて提示している。また各空間は毎日掃除をしている。定期的にお花を飾ったりして居心地よく過ごして頂ける場を提供するよう常に心掛けている。	共有スペースの壁は利用者の作品が飾られ、花やおひな様などの季節感ある場となっている。臭気に気をつけ、清潔な共有空間作りを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は入居者様が自由に過ごして頂けるよう支援している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にキーパーソンの方にご説明をして本氏が使い慣れた物や以前から使っていた物なども余程の理由がない限り持って来ていただいている。	居室内はその人らしい生活に必要な小物を中心に、馴染みの物の持ち込みがある。衣裳ラック、椅子、ベッド、カーテンも好みの色で、又、家族の写真などが壁にはられ、居心地良く過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様に常に係りを持ち日々、本人様に合った生活を送っていただけるよう心掛けている。		